



## DWDM カードの設定変更

---

この章では、Cisco ONS 15454 カード（オプティカル サービス、増幅器、マルチプレクサ、デマルチプレクサ、32 WSS、MMU、AIC-I）で、回線、Performance Monitoring（PM; パフォーマンス モニタリング）、およびスレッショールドの設定を変更する方法について説明します。Dense Wavelength Division Multiplexing（DWDM; 高密度波長分割多重）カードの取り付けについては、「[NTP-G30 DWDM カードの取り付け](#)」（p.3-52）を参照してください。



---

(注) 特に指定のないかぎり、「ONS 15454」は ANSI と ETSI の両方のシェルフ アセンブリを意味します。

---



---

(注) 特に指定のないかぎり、カードパラメータは、ANSI と ETSI の両方のシェルフ アセンブリに取り付けられたカードに適用されます。

---

## 作業の概要

以降の手順を実行する前に、すべてのアラームを調査して問題となる状況をすべて解決しておいてください。必要に応じて、『Cisco ONS 15454 DWDM Troubleshooting Guide』を参照してください。



### 注意

カード設定の変更は、サービスに影響することがあります。すべての変更はスケジュールされた保守時間中に行ってください。

ここでは、主要手順（NTP）について説明します。具体的な作業については、詳細手順（DLP）を参照してください。

1. [NTP-G90 OSCM および OSC-CSM カードの回線設定と PM スレッシュホールドの変更 \(p.11-3\)](#) — 必要に応じて、この手順を実行して OSCM および OSC-CSM カードの設定を変更します。
2. [NTP-G91 OPT-PRE および OPT-BST カードの回線設定と PM スレッシュホールドの変更 \(p.11-14\)](#) — 必要に応じて、この手順を実行して OPT-PRE および OPT-BST 増幅器カードの設定を変更します。
3. [NTP-G160 OPT-AMP-L カードの回線設定と PM スレッシュホールドの変更 \(p.11-26\)](#) — 必要に応じて、この手順を実行して OPT-AM-L 増幅器カードの設定を変更します。
4. [NTP-G92 32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、および 4MD ライン カードの設定と PM スレッシュホールドの変更 \(p.11-38\)](#) — 必要に応じて、この手順を実行してマルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの設定を変更します。
5. [NTP-G93 32WSS と 32WSS-L の回線設定と PM スレッシュホールドの変更 \(p.11-48\)](#) — 必要に応じて、この手順を実行して 32WSS および 32WSS-L カードの設定を変更します。
6. [NTP-G149 MMU の回線設定と PM スレッシュホールドの変更 \(p.11-58\)](#) — 必要に応じて、この手順を実行して MMU カードの設定を変更します。
7. [NTP-G101 Alarm Interface Controller-International \(AIC-I\) の設定の変更 \(p.11-62\)](#) — 必要に応じて、この手順を実行して AIC-I カードの外部アラーム、制御、オーダーワイヤの設定を変更します。
8. [NTP-G102 カードのサービス状態の変更 \(p.11-65\)](#) — 必要に応じて、この手順を実行してカードのサービス状態を変更します。

## NTP-G90 OSCM および OSC-CSM カードの回線設定と PM スレッシュホールドの変更

目的	この手順を実行することで、OSCM および OSC-CSM カードの光サービス チャンネル (OC-3/STM-1)、PM パラメータ、スレッシュホールドを変更できます。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">NTP-G30 DWDM カードの取り付け (p.3-52)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** OSCM カードや OSC-CSM カードの設定を変更するノードで、「[DLP-G46 CTC へのログイン](#)」(p.2-29) の作業を行います。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#) に進みます。

**ステップ 2** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ](#)」(p.13-3) を実行します。

**ステップ 3** 必要に応じて次の作業を行います。

- [DLP-G199 OSCM および OSC-CSM 光サービス チャンネル設定の変更 \(p.11-3\)](#)
- [DLP-G200 OSCM および OSC-CSM 光サービス チャンネルのスレッシュホールドの変更 \(p.11-5\)](#)
- [DLP-G201 OSCM および OSC-CSM カードの光回線パラメータの変更 \(p.11-7\)](#)
- [DLP-G202 OSCM および OSC-CSM の光回線スレッシュホールドの設定変更 \(p.11-9\)](#)
- [DLP-G203 OSCM および OSC-CSM ALS のメンテナンスの設定変更 \(p.11-12\)](#)

**ステップ 4** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ](#)」(p.13-3) の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

## DLP-G199 OSCM および OSC-CSM 光サービス チャンネル設定の変更

目的	この作業では、OSCM および OSC-CSM カードの OC-3/STM-1 Optical Service Channel (OSC; 光サービス チャンネル) の設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、OC-3 光回線設定を変更する OSCM カードまたは OSC-CSM カードをダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > OC3 Line > OC3 Line (ANSI)** または **Provisioning > STM-1 > STM-1 Line (ETSI)** タブをクリックします。

**ステップ 3** 表 11-1 に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータはオプションのカラムに一覧されています。

表 11-1 OSCM および OSC-CSM カードの OC-3/STM-1 設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号 (1) を表示します。	—
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	<p>ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトは空白です。</p> <p>「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-3) を参照してください。</p>
Admin State	(表示のみ) ポートの管理状態を表示します。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS (ANSI) または Unlocked (ETSI) — ポートをインサービスにします。ポートのサービス状態は、IS-NR (ANSI) または Unlocked-enabled (ETSI) に変わります。</li> <li>IS,AINS (ANSI) または Unlocked,automaticInService (ETSI) — ポートをオート イン サービスにします。ポートのサービス状態は、OOS-AU,AINS (ANSI) または Unlocked-disabled,automaticInService (ETSI) に変わります。</li> </ul>
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS-NR (In-Service and Normal [ANSI]) または Unlocked-enabled (ETSI) — ポートは完全に正常で、プロビジョニング内容どおりに動作しています。</li> <li>OOS-AU,AINS (Out-Of-Service and Autonomous, Automatic In-Service [ANSI]) または Unlocked-disabled,automaticInService (ETSI) — ポートはアウト オブ サービスですが、トラフィックは伝送されています。アラームの報告は抑制されます。ONS ノードがポートをモニタし、エラーのない信号の着信を待ちます。エラーのない信号が検出されると、ポートはソーク期間の間、OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled,automaticInService 状態となります。ソーク期間が終了すると、ポートのサービス状態が IS-NR/Unlocked-enabled に変わります。</li> <li>OOS-MA,DSBLD (Out-of-Service and Management, Disabled [ANSI]) または Locked-enabled,disabled (ETSI) — ポートはアウト オブ サービスで、トラフィックを伝送できません。</li> <li>OOS-MA,MT (Out-of-Service and Management, Maintenance [ANSI]) または Locked-enabled,maintenance (ETSI) — ポートはメンテナンスのためにアウト オブ サービスです。アラーム報告は抑制されていますが、トラフィックは伝送され、ループバックは許可されています。</li> </ul>
SF BER	信号損失ビット エラー レートを設定します。	<p>ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1E-3</li> <li>1E-4</li> <li>1E-5</li> </ul>

表 11-1 OSCM および OSC-CSM カードの OC-3/STM-1 設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
SD BER	信号劣化ビット エラー レートを設定します。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1E-5</li> <li>• 1E-6</li> <li>• 1E-7</li> <li>• 1E-8</li> <li>• 1E-9</li> </ul>
Provides Synch	(表示のみ) オンにすると、そのカードが NE (ネットワーク要素) のタイミング基準としてプロビジョニングされます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オン</li> <li>• オフ</li> </ul>
SyncMsgIn	S1 バイトの Synchronization Status Messages (SSM; 同期ステータス メッセージ) をイネーブルにし、ノードで最適なタイミングソースを選択できるようにします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オン</li> <li>• オフ</li> </ul>
Send Do Not Use	オンにすると、Do Not Use for Synchronization (DUS) メッセージが S1 バイトで送信されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オン</li> <li>• オフ</li> </ul>
PJSTSMon#	(表示のみ) ポインタ位置調整に使用される STS を設定します。	このパラメータはオフに設定されています。変更することはできません。
AINS Soak	(表示のみ) オート イン サービスのソーク期間。常に 00.00 です。	—
Type	ポートを SONET または SDH として定義します。ポートを SDH に設定するには、先に Enable Sync Msg フィールドと Send Do Not Use フィールドをディセーブルにしておく必要があります。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SONET</li> <li>• SDH</li> </ul>

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G200 OSCM および OSC-CSM 光サービス チャネルのスレッシュホールドの変更

目的	この作業では、OSCM および OSC-CSM カードが送信する OSC 信号の OC-3 (STM-1) SONET (SDH) スレッシュホールドの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線のスレッシュホールド設定を変更する OSCM カードまたは OSC-CSM カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > OC3 Line > SONET Thresholds (ANSI)** または **Provisioning > OC3 Line > SDH Thresholds (ETSI)** タブをクリックします。
- ステップ 3** 表 11-2 (ANSI) または 表 11-3 (ETSI) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。

表 11-2 OSCM および OSC-CSM カードの SONET スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号 (1) を表示します。	—
CV	符号化違反	数値。回線またはセクションに対して、15 分間隔または 1 日間隔に設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。
ES	エラー秒数	数値。回線またはセクションに対して、15 分間隔または 1 日間隔に設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。
SES	重大エラー秒数	数値。回線またはセクションに対して、15 分間隔または 1 日間隔に設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。
SEFS	重大エラー フレーム秒数 (セクションのみ)	数値。15 分間隔または 1 日間隔で、セクションのみに設定できます (遠端のみ)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。
FC	障害カウント (回線のみ)	数値。回線に 15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします (近端および遠端)。
UAS	使用不可秒数 (回線のみ)	数値。回線に対して 15 分間隔または 1 日間隔で設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。

表 11-3 OSCM および OSC-CSM カードの SDH スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号 (1) を表示します。	—
EB	エラーブロック	数値。Multiplex Section (MS) または Regeneration Section (RS) に対して、15 分間隔または 1 日間隔に設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。
ES	エラー秒数	数値。Multiplex Section (MS) または Regeneration Section (RS) に対して、15 分間隔または 1 日間隔に設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。
SES	重大エラー秒数	数値。MS または RS に対して、15 分間隔または 1 日間隔で設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。

表 11-3 OSCM および OSC-CSM カードの SDH スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
BBE	バックグラウンドブ ロック エラー	数値。MS または RS に対して、15 分間隔または 1 日間隔で 設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> を クリックします。
OFS		数値。RS に対して 15 分間隔または 1 日間隔で設定できます (近端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> をクリックします。
UAS	使用不可秒数	数値。MS または RS に対して、15 分間隔または 1 日間隔で 設定できます (近端および遠端)。黒点を選択し、 <b>Refresh</b> を クリックします。

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G201 OSCM および OSC-CSM カードの光回線パラメータの変更

目的	この作業では、OSCM および OSC-CSM カードの光回線パラメータを 変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、  
光回線のパラメータを変更する OSCM カードまたは OSC-CSM カードをダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Parameters** タブをクリックします。

**ステップ 3** [表 11-4](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプ  
ションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション (ANSI) の次  
に SDH オプション (ETSI) が続きます。

表 11-4 OSCM および OSC-CSM カードの光回線パラメータ設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  OSCM <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (OSC-RX)</li> <li>• 3 (OSC-TX)</li> </ul> OSC-CSM <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (COM-RX)</li> <li>• 3 (COM-TX)</li> <li>• 4 (LINE-RX)</li> <li>• 5 (LINE-TX)</li> <li>• 6 (OSC-RX)</li> <li>• 6 (OSC-TX)</li> </ul>	—
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。  「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-3) を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>• OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>• OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>• OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled,automaticInService</li> <li>• OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>• OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• East to West</li> <li>• West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Power	(表示のみ) 現在の電力レベルをポート別に表示します。	—
VOA Mode	(表示のみ) 存在する場合、Variable Optical Attenuator (VOA; 可変光減衰器) の機能モードを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Constant Attenuation</li> <li>• Constant Power</li> </ul>
VOA Power Ref	(表示のみ) VOA が存在し、VOA Mode が Constant Power に設定されている場合、光回線が到達すべき電力設定点を表示します。このパラメータは、ANS でのみ変更できます。	—



表 11-4 OSCM および OSC-CSM カードの光回線パラメータ設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
VOA Power Calib	VOA Mode が Constant Power に設定されている場合、VOA の光回線の電力値を変更します。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
VOA Attenuation Ref	(表示のみ) VOA Mode が Constant Attenuation に設定されている場合、VOA の減衰値を表示します。このパラメータは、ANS でのみ変更できます。	—
VOA Attenuation Calib	VOA Mode が Constant Attenuation に設定されている場合、VOA の減衰値を変更します。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G202 OSCM および OSC-CSM の光回線スレッシュホールドの設定変更

目的	この作業では、OSCM および OSC-CSM カードの光回線スレッシュホールドの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光チャンネルのスレッシュホールド設定を変更する OSCM カードまたは OSC-CSM カードをダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Optics Thresholds** タブをクリックします。

**ステップ 3** Type で、変更するスレッシュホールドのタイプを選択します (**Warning** または **Alarm**)。



### 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタム アラーム プロファイルを使用してモニタする必要があります。

**ステップ 4** **Refresh** をクリックします。

**ステップ 5** 警告またはアラーム スレッシュホールドの設定を変更します。表 11-5 に、警告のスレッシュホールドを示します。表 11-6 に、アラームのスレッシュホールドを示します。

表 11-5 OSCM および OSC-CSM カードの光回線の警告スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  OSCM <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (OSC-RX)</li> <li>• 3 (OSC-TX)</li> </ul> OSC-CSM <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (COM-RX)</li> <li>• 3 (COM-TX)</li> <li>• 4 (LINE-RX)</li> <li>• 5 (LINE-TX)</li> <li>• 6 (OSC-RX)</li> <li>• 6 (OSC-TX)</li> </ul>	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

表 11-6 OSCM および OSC-CSM カード光回線のアラーム スレッシュホールドの設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  OSCM <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (OSC-RX)</li> <li>• 3 (OSC-TX)</li> </ul> OSC-CSM <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (COM-RX)</li> <li>• 3 (COM-TX)</li> <li>• 4 (LINE-RX)</li> <li>• 5 (LINE-TX)</li> <li>• 6 (OSC-RX)</li> <li>• 6 (OSC-TX)</li> </ul>	—

表 11-6 OSCM および OSC-CSM カード光回線のアラーム スレッシュホールドの設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Power Failure Low (dBm)	<p>ポートの光回線電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。このスレッシュホールドは、ANS を実行したときに自動的に計算されます。VOA Mode が Constant Attenuation である場合、スレッシュホールドを手動で変更できます。値は、カード側に指定されている光回線電力の範囲内に設定する必要があります (『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specification」を参照してください)。</p> <p>VOA Mode が Constant Power の場合、値に Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) が使用されるため、スレッシュホールドを手動で変更することはできません。スレッシュホールドを変更する場合は、VOA Power Calib 値を変更する必要があります。これにより、Power Setpoint を調整します。スレッシュホールドは、自動的に Power Setpoint よりも 5 dB 小さい値に設定されます。</p>	数値 (dB)。テーブルセルをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
Power Degrade High (dBm)	<p>電力低下の上限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時に電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、VOA (OSC-VOA) に関連しているポートに適用されます。Constant Power モードでは、ポートが常にアクティブであり、スレッシュホールドは自動的に Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) にリンクされます。スレッシュホールドを変更するには、Power Setpoint を変更します。スレッシュホールドは Power Setpoint より常に 2 dB 大きく設定されます。</p>	数値
Power Degrade Low (dBm)	<p>電力低下の下限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時に電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、Constant Power モードで常にアクティブな VOA (OSC-VOA) に関連するポートに適用されます。</p> <p>この場合、スレッシュホールドはプロビジョニングされた Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) に自動的にリンクされます。この設定点を変更すると、スレッシュホールドも (常に 2 dB 低く) 変更されます。</p>	数値
VOA Degrade High (dBm)	OSCM および OSC-CSM カードには適用されません。	—
VOA Degrade Low (dBm)	OSCM および OSC-CSM カードには適用されません。	—

**ステップ 6** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

ステップ 7 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G203 OSCM および OSC-CSM ALS のメンテナンスの設定変更

目的	この作業では、OSC-CSM および OSCM カードの Automatic Laser Shutdown (ALS; 自動レーザー遮断) メンテナンスの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) ALS 機能をディセーブルにするのは、インストールやメンテナンスのときだけです。メンテナンスまたはインストールが完了したら、ただちにイネーブルにしてください。



### 警告

終端していないファイバ ケーブルの先端やコネクタからは、目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。光学機器を使用してレーザー光を直視しないでください。光学機器 (ルーペ、拡大鏡、顕微鏡など) で 100 mm 以内から放射されるレーザーを見ると、目を痛める恐れがあります。

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、ALS メンテナンスの設定を変更する OSC-CSM カード または OSCM カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** Maintenance > ALS タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 11-7](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。

表 11-7 OSC-CSM および OSCM のメンテナンス設定

パラメータ	説明	オプション
OSRI	Optical Safety Remote Interlock (光安全保護リモートインターロック)。On に設定されている場合、OSC TX の出力電力が遮断されます。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• On</li> <li>• Off</li> </ul>
ALS Mode	自動レーザー遮断のモード。OSCM カードでは、OSC RX が Loss of Signal (LOS; 信号損失) を検出したときに、ALS によって OSC TX レーザーが遮断されます。  OSC-CSM カードでは、ALS によって OSCM カードと同一の機能が提供されます。また、DWDM ネットワーク層で、光回線の安全メカニズムもイネーブルになります。詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の「Card Reference」の章を参照してください。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Disable — ALS をディセーブルにします。</li> <li>• Auto Restart — (デフォルト) ALS をイネーブルにします。電力は適宜自動的に遮断されます。その後プローブパルスを使用して、障害が復旧するまで自動的に再起動を試行します。</li> <li>• Manual Restart</li> <li>• Manual Restart for Test</li> </ul>
Recovery Pulse Duration	(表示のみ) 増幅器の再起動時に光電力パルスを送信する時間の長さを表示します。	—
Recovery Pulse Interval	(表示のみ) 光電力パルスの間隔を表示します。	—
Currently Shutdown	(表示のみ) レーザーが現在遮断されているかどうかを表示します。YES または NO のいずれかです。	—
Request Laser Restart	オンの場合、レーザーを再起動できます。	オンまたはオフ

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## NTP-G91 OPT-PRE および OPT-BST カードの回線設定と PM スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L 増幅器カードの回線およびスレッシュホールドの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">NTP-G30 DWDM カードの取り付け (p.3-52)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L 増幅器カード設定の変更を行うノードで、「[DLP-G46 CTC へのログイン \(p.2-29\)](#)」の作業を行います。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#)に進みます。

**ステップ 2** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ \(p.13-3\)](#)」を実行します。

**ステップ 3** 必要に応じて次の作業を行います。

- [DLP-G204 OPT-PRE および OPT-BST 増幅器の光回線設定の変更 \(p.11-14\)](#)
- [DLP-G205 OPT-PRE および OPT-BST 増幅器の光回線スレッシュホールドの設定の変更 \(p.11-16\)](#)
- [DLP-G206 OPT-PRE および OPT-BST 増幅器の光増幅器回線設定の変更 \(p.11-19\)](#)
- [DLP-G207 OPT-PRE および OPT-BST 増幅器の光増幅器スレッシュホールド設定の変更 \(p.11-21\)](#)
- [DLP-G322 OPT-BST の ALS メンテナンス設定の変更 \(p.11-24\)](#)

**ステップ 4** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ \(p.13-3\)](#)」の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

## DLP-G204 OPT-PRE および OPT-BST 増幅器の光回線設定の変更

目的	この作業では、OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L 増幅器カードの光回線設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線設定を変更する OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L 増幅器をダブルクリックします。

**ステップ 2** Provisioning > Optical Line > Parameters タブをクリックします。

**ステップ 3** 表 11-8 に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション (ANSI) の次に SDH オプション (ETSI) が続きます。

表 11-8 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L 増幅器の光回線設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (COM-RX)</li> <li>• 2 (COM-TX)</li> <li>• 3 (OSC-RX)</li> <li>• 4 (OSC-TX)</li> <li>• 5 (LINE-RX)</li> </ul> OPT-PRE <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (COM-RX)</li> <li>• 3 (DC-RX)</li> <li>• 4 (DC-TX)</li> </ul>	—
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。  「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-3) を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>• OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>• OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>• OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled,automaticInService</li> <li>• OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>• OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• East to West</li> <li>• West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Power	(表示のみ) 現在の電力レベルをポート別に表示します。	—
AINS Soak	(表示のみ) ソーク時間を表示します。常に 00.00 です。	—

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G205 OPT-PRE および OPT-BST 増幅器の光回線スレッシュホールドの設定の変更

目的	この作業では、OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L 増幅器カードの光回線スレッシュホールド設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタムアラームプロファイルを使用してモニタする必要があります。

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線のスレッシュホールド設定を変更する OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L 増幅器をダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Optics Thresholds** タブをクリックします。

**ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。

- a. **Types** で、**Warning** を選択します。
- b. プロビジョニングする警告インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
- c. **Refresh** をクリックします。
- d. [表 11-9](#) のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- e. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。



表 11-9 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L カードの光回線の警告スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (COM-RX)</li> <li>• 2 (COM-TX)</li> <li>• 3 (OSC-RX)</li> <li>• 4 (OSC-TX)</li> <li>• 5 (LINE-RX)</li> </ul> OPT-PRE  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (COM-RX)</li> <li>• 3 (DC-RX)</li> </ul> 4 (DC-TX)	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

- a. **Types** で、**Alarm** を選択します。
- b. **Refresh** をクリックします。
- c. [表 11-10](#) のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- d. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-10 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L カードの光回線のアラーム スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	<p>(表示のみ) ポート番号、ポート タイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。</p> <p>OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (COM-RX)</li> <li>• 2 (COM-TX)</li> <li>• 3 (OSC-RX)</li> <li>• 4 (OSC-TX)</li> <li>• 5 (LINE-RX)</li> </ul> <p>OPT-PRE</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (COM-RX)</li> <li>• 3 (DC-RX)</li> <li>• 4 (DC-TX)</li> </ul>	—
Power Failure Low (dBm)	<p>ポートの光回線電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。スレッシュホールドは、ANS を実行したときに自動的に計算されます。スレッシュホールドは、手動で変更できます。値は、カード側に指定されている光回線電力の範囲内に設定する必要があります (『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specification」を参照してください)。</p> <p>OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L カードについて、このパラメータはポート 1 (COM-RX)、ポート 2 (COM-TX) に適用され、ポート 4 (OSC-TX) は、DWDM ネットワーク層で光回線の安全メカニズムに関係しません (詳細は Chapter 16 「16.4 Network Optical Safety - Automatic Laser Shutdown」を参照)。</p>	数値。テーブルセルをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
Power Degrade High (dBm)	OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L、および OPT-PRE の回線パラメータには適用されません。	数値
Power Degrade Low (dBm)	OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L、および OPT-PRE の回線パラメータには適用されません。	数値
Gain Degrade Low (dB)	OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L、および OPT-PRE の回線パラメータには適用されません。	—
Gain Degrade High (dB)	OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L、および OPT-PRE の回線パラメータには適用されません。	—

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G206 OPT-PRE および OPT-BST 増幅器の光増幅器回線設定の変更

目的	この作業では、OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L 増幅器カードの光増幅器回線設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光増幅器回線設定を変更する OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L 増幅器をダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Opt. Ampli. Line > Parameters** タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 11-11](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション (ANSI) の次に SDH オプション (ETSI) が続きます。

表 11-11 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L の光増幅器回線設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  OPT-PRE <ul style="list-style-type: none"> <li>2 (COM-TX)</li> </ul> OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L <ul style="list-style-type: none"> <li>6 (LINE-TX)</li> </ul>	—
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。  「 <a href="#">DLP-G104 ポートへの名前の割り当て (p.7-3)</a> 」を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『 <i>Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual</i> 』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『 <i>Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual</i> 』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled,automaticInService</li> <li>OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>

表 11-11 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L の光増幅器回線設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>East to West</li> <li>West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Total Output Power	(表示のみ) 現在の電力レベルをポート別に表示します。	—
Channel Power Ref	(表示のみ) Control Gain がイネーブブルの場合、増幅器出力が到達すべき信号電力設定点を光チャンネルごとに表示します。	数値。テーブルセルをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
Offset	ネットワーク状態により調整できない場合 (例: ポートが IS 状態) を除いて、Total Output Power を調整します。	数値。テーブルセルをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
Signal Output Power	(表示のみ) Amplified Spontaneous Emission (ASE; 増幅時自発放射) の寄与を含め、増幅器から流れる現在の出力電力を表示します。	—
Output Power Set-Point	(表示のみ) 出力電力設定点を表示します。	—
Working Mode	(表示のみ) 動作モードを表示します (GAIN または POWER)。	—
Gain	(表示のみ) 増幅器の現在のゲイン	—
Gain Set Point	増幅器が達すべきゲインの値。APC は、増幅器によって管理される Optical Channel Network Connection (OCHNC; 光チャンネルネットワーク接続) 回線の番号に基づいて、またはファイバの老朽化による挿入損失を補償するように、この値を変更できます。詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の「Network Reference」の章を参照してください。	モード設定に応じて表示専用または数値。システムがメトロ コアとして設定されている場合、このフィールドは表示専用です。システムがメトロ アクセスとして設定されている場合、このフィールドはユーザにより変更可能です。
AINS Soak	(表示のみ) オートインサービスのソーク期間。常に 00.00 です。	—
Tilt Reference	(表示のみ) 増幅器の偏向のデフォルト値を表示します。このフィールドは、ANS でのみ変更できます。	—
Tilt Calibration	手動で増幅器の偏向を調整できます。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
DCU Insertion Loss	(OPT-PRE カードのみ。表示専用)	—

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G207 OPT-PRE および OPT-BST 増幅器の光増幅器スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L 増幅器カードの光チャンネル スレッシュホールド設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



## 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタム アラーム プロファイルを使用してモニタする必要があります。

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光チャンネルのスレッシュホールド設定を変更する OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L 増幅器をダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Opt Apli Line > Optics Thresholds** タブをクリックします。
- ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
- Types で、**Warning** を選択します。
  - プロビジョニングする警告インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
  - Refresh** をクリックします。
  - [表 11-12](#) のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
  - Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**表 11-12 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L カードの増幅器回線の警告スレッシュホールド設定**

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  OPT-PRE <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (COM-TX)</li> </ul> OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L <ul style="list-style-type: none"> <li>• 6 (LINE-TX)</li> </ul>	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

表 11-12 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L カードの増幅器回線の警告スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

- a. プロビジョニングするアラーム インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
- b. **Types** で、**Alarm** を選択します。
- c. **Refresh** をクリックします。
- d. [表 11-13](#) のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- e. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-13 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L カードの増幅器回線のアラーム スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポート タイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  OPT-PRE <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (COM-TX)</li> </ul> OPT-BST、OPT-BST-E、OPT-BST-L <ul style="list-style-type: none"> <li>• 6 (LINE-TX)</li> </ul>	—
Power Degrade High (dBm)	OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L の回線パラメータには適用されません。	—
Power Degrade Low (dBm)	OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L の回線パラメータには適用されません。	—

表 11-13 OPT-PRE、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L カードの増幅器回線のアラーム スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Power Degrade Low (dBm)	<p>(表示のみ) カードに設定された光電力低下の現在の下限スレッシュホールド値を表示します。このスレッシュホールドは、増幅器がアクティブで Constant Power モードのときだけ適用されます。</p> <p>Power Degrade Low は、増幅器の起動時に、TCC2/TCC2P によって自動的に算出されます (ポートの Signal Output Power 値が参照されます)。</p> <p>Power Degrade Low スレッシュホールドは、Parameters タブの Output Power Setpoint にリンクされています。この設定点を変更することで、Power Degrade Low スレッシュホールドも変更されます。スレッシュホールドは Output Power Setpoint の値より常に 2 dB 小さく設定されます。</p> <p>増幅器が管理する OCHNC 回線の番号に基づいて、APC はこの値を変更できます。</p>	—
Gain Degrade High (dBm)	<p>(表示のみ) カードに設定されたゲイン低下の現在の上限スレッシュホールド値を表示します。このスレッシュホールドは、増幅器がアクティブで Constant Gain モードのときだけ適用されます。</p> <p>Gain Degrade High は、増幅器の起動時に、TCC2/TCC2P によって自動的に算出されます (ポートの Gain 値が参照されます)。</p> <p>Gain Degrade High スレッシュホールドは、Gain Setpoint にリンクされています。この設定点を変更することで、Gain Degrade High スレッシュホールドも変更されます。スレッシュホールドは Gain Setpoint の値より常に 2 dB 大きく設定されます。</p> <p>APC は、増幅器が管理する OCHNC 回線の番号に基づいて、またはファイバの老朽化による挿入損失を補償するように、この値を変更できます。</p>	—
Gain Degrade Low (dBm)	<p>(表示のみ) カードに設定されたゲイン低下の現在の下限スレッシュホールド値を表示します。このスレッシュホールドは、増幅器がアクティブで Constant Gain モードのときだけ適用されます。</p> <p>Gain Degrade Low は、増幅器の起動時に、TCC2/TCC2P によって自動的に算出されます (ポートの Gain 値が参照されます)。</p> <p>Gain Degrade Low スレッシュホールドは、プロビジョニングされた Gain Setpoint に自動的にリンクされます。この設定点を変更することで、Gain Degrade Low のスレッシュホールドも変更されます。スレッシュホールドは Gain Setpoint の値より常に 2 dB 小さく設定されます。</p> <p>APC は、増幅器が管理する OCHNC 回線の番号に基づいて、この値を変更できます。</p>	—

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G322 OPT-BST の ALS メンテナンス設定の変更

目的	この作業では、OPT-BST、OPT-BST-E、および OPT-BST-L カードの ALS メンテナンス設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



**(注)** Automatic Laser Shutdown (ALS; 自動レーザー遮断) 機能をディセーブルにするのは、インストールやメンテナンスのときだけです。メンテナンスまたはインストールが完了したら、ただちにイネーブルにしてください。



### 警告

終端していないファイバ ケーブルの先端やコネクタからは、目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。光学機器を使用してレーザー光を直視しないでください。光学機器 (ルーペ、拡大鏡、顕微鏡など) で 100 mm 以内から放射されるレーザーを見ると、目を痛める恐れがあります。

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、ALS メンテナンス設定を変更する OPT-BST、OPT-BST-E、または OPT-BST-L をダブルクリックします。
- ステップ 2** Maintenance > ALS タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 11-14](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。



表 11-14 OPT-BST のメンテナンス設定

パラメータ	説明	オプション
OSRI	光安全保護リモート インターロック。On に設定すると、OPT-BST TX の出力電力が遮断されます。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• On</li> <li>• Off</li> </ul>
ALS Mode	自動レーザー遮断 (ALS)。OPT-BST カードでは、OPT-BST RX で LOS が検出されたときに ALS が OPT-BST TX レーザーを遮断します。  また、ALS により、DWDM のネットワーク層で光回線の安全メカニズムもイネーブルになります。詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の「Card Reference」の章にある「Automatic Laser Shutdown」の項を参照してください。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Disable — ALS をディセーブルにします。</li> <li>• Auto Restart — (デフォルト) ALS をイネーブルにします。電力は適宜自動的に遮断されます。その後プローブパルスを使用して、障害が復旧するまで自動的に再起動を試行します。</li> <li>• Manual Restart</li> <li>• Manual Restart for Test</li> </ul>
Recovery Pulse Duration	(表示のみ) 増幅器の再起動時に光電力パルスを送信する時間の長さを表示します。	—
Recovery Pulse Interval	(表示のみ) 光電力パルスの間隔を表示します。	—
Currently Shutdown	(表示のみ) レーザーが現在遮断されているかどうかを表示します。YES または NO のいずれかです。	—
Request Laser Restart	オンの場合、レーザーを再起動できます。	オンまたはオフ

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## NTP-G160 OPT-AMP-L カードの回線設定と PM スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、OPT-AMP-L 増幅器カードの回線とスレッシュホールドの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">NTP-G30 DWDM カードの取り付け (p.3-52)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** OPT-AMP-L 増幅器カードの設定変更を行うノードで、「[DLP-G46 CTC へのログイン \(p.2-29\)](#)」の作業を行います。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#)に進みます。

**ステップ 2** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ \(p.13-3\)](#)」を実行します。

**ステップ 3** 次の手順でカードの動作モードを設定します。



### 注意

イン サービス状態で回線がプロビジョニングされている場合は、OPT-AMP-L の動作モードを変更しないでください。

- a. カード ビューで OPT-AMP-L を表示します。
- b. **Provisioning > Card** タブをクリックします。
- c. Card Working Mode フィールドで、次のいずれかを選択します。
  - **OPT-PRE** — カードの動作モードを光プリアンプに設定します。
  - **OPT-LINE** — カードの動作モードを光ブースタに設定します。
- d. **Apply** をクリックします。

**ステップ 4** 必要に応じて次の作業を行います。

- [DLP-G323 OPT-AMP-L 増幅器の光回線設定の変更 \(p.11-27\)](#)
- [DLP-G324 OPT-AMP-L 増幅器の光回線スレッシュホールド設定の変更 \(p.11-28\)](#)
- [DLP-G325 OPT-AMP-L 増幅器の光増幅器回線設定の変更 \(p.11-30\)](#)
- [DLP-G326 OPT-AMP-L 増幅器の光増幅器スレッシュホールド設定の変更 \(p.11-32\)](#)
- [DLP-G327 OPT-LINE モードで設定された OPT-AMP-L カードの ALS メンテナンス設定の変更 \(p.11-36\)](#)

**ステップ 5** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ \(p.13-3\)](#)」を実行します。

終了：この手順は、これで完了です。

## DLP-G323 OPT-AMP-L 増幅器の光回線設定の変更

目的	この作業では、OPT-AMP-L 増幅器カードの光回線設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線設定を変更する OPT-AMP-L 増幅器をダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Parameters** タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 11-15](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション (ANSI) の次に SDH オプション (ETSI) が続きます。

表 11-15 OPT-AMP-L 増幅器の光回線設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>1 (COM-RX)</li> <li>2 (COM-TX)</li> <li>3 (OSC-RX)</li> <li>4 (OSC-TX)</li> <li>5 (LINE-RX)</li> <li>7 (DC-RX)</li> <li>9 (DC-TX)</li> </ul>	—
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。  <a href="#">「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-3)</a> を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『 <i>Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual</i> 』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>

表 11-15 OPT-AMP-L 増幅器の光回線設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled, automaticInService</li> <li>OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>East to West</li> <li>West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
AINS Soak	(表示のみ) ソーク時間を表示します。常に 00.00 です。	—
Power	(表示のみ) 現在の電力レベルをポート別に表示します。	—

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G324 OPT-AMP-L 増幅器の光回線スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、OPT-AMP-L 増幅器カードの光回線スレッシュホールド設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタム アラーム プロファイルを使用してモニタする必要があります。

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線スレッシュホールド設定を変更する OPT-AMP-L 増幅器をダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Optics Thresholds** タブをクリックします。

**ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。

a. **Types** で、**Warning** を選択します。

- b. プロビジョニングする警告インターバルを選択します (15 minutes または 1 Day)。
- c. **Refresh** をクリックします。
- d. 表 11-16 のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- e. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-16 OPT-AMP-L カードの光回線の警告スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (COM-RX)</li> <li>• 2 (COM-TX)</li> <li>• 3 (OSC-RX)</li> <li>• 4 (OSC-TX)</li> <li>• 5 (LINE-RX)</li> <li>• 7 (DC-RX)</li> <li>• 8 (DC-TX)</li> </ul>	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

- a. **Types** で、**Alarm** を選択します。
- b. **Refresh** をクリックします。
- c. 表 11-17 のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- d. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-17 OPT-AMP-L カードの光回線のアラーム スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (COM-RX)</li> <li>• 2 (COM-TX)</li> <li>• 3 (OSC-RX)</li> <li>• 4 (OSC-TX)</li> <li>• 5 (LINE-RX)</li> <li>• 7 (DC-RX)</li> <li>• 8 (DC-TX)</li> </ul>	—
Power Failure Low (dBm)	ポートの光回線電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。スレッシュホールドは、ANS を実行したときに自動的に計算されます。スレッシュホールドは、手動で変更できます。値は、カード側に指定されている光回線電力の範囲内に設定する必要があります(『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specification」を参照してください)。	数値
Power Degrade High (dBm)	OPT-AMP-L の回線パラメータには適用されません。	数値
Power Degrade Low (dBm)	OPT-AMP-L の回線パラメータには適用されません。	数値
Gain Degrade Low (dBm)	OPT-AMP-L の回線パラメータには適用されません。	—
Gain Degrade High (dBm)	OPT-AMP-L の回線パラメータには適用されません。	—

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G325 OPT-AMP-L 増幅器の光増幅器回線設定の変更

目的	この作業では、OPT-AMP-L 増幅器カードの光増幅器回線設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光増幅器回線設定を変更する OPT-AMP-L 増幅器をダブルクリックします。

**ステップ 2** Provisioning > Opt. Ampli. Line > Parameters タブをクリックします。

**ステップ 3** 表 11-18 に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション (ANSI) の次に SDH オプション (ETSI) が続きます。

表 11-18 OPT-AMP-L の光増幅器回線設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (6 : LINE-TX) を表示します。	—
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。  「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-3) を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>
Service State	(表示のみ) 自動的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。サービス状態は、「Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State」という形式で表示されます。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled,automaticInService</li> <li>OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>East to West</li> <li>West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Total Output Power	(表示のみ) 現在の電力レベルをポート別に表示します。	—
Channel Power Ref	(表示のみ) Control Gain がイネーブルの場合、増幅器出力が到達すべき信号電力設定点を光チャネルごとに表示します。	—
Offset	ネットワーク状態により調整できない場合 (例：ポートが IS 状態) を除いて、Total Output Power を調整します。	数値。ダブルクリックして変更します。
Signal Output Power	(表示のみ) ASE の寄与を含め、増幅器から流れる現在の出力電力を表示します。	—
Output Power Set-Point	(表示のみ) 出力電力設定点を表示します。	—
Working Mode	(表示のみ) 動作モードを表示します (Output Power または Control Gain)。	—
Gain	(表示のみ) 増幅器の現在のゲイン。	—

表 11-18 OPT-AMP-L の光増幅器回線設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Gain Set Point	増幅器が達すべきゲイン。APC は、増幅器によって管理される OCHNC 回線の番号に基づいて、またはファイバの老朽化による挿入損失を補償するように、この値を変更できます。詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の「Network Reference」の章を参照してください。	モード設定に応じて表示専用または数値。システムがメトロ コアとして設定されている場合、このフィールドは表示専用です。システムがメトロ アクセスとして設定されている場合、このフィールドはユーザにより変更可能です。
AINS Soak	(表示のみ) オート イン サービスのソーク期間。常に 00.00 です。	—
Tilt Reference	(表示のみ) 増幅器の偏向のデフォルト値を表示します。このフィールドは、ANS でのみ変更できます。	—
Tilt Calibration	手動で増幅器の偏向を調整できます。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
DCU Insertion Loss	(OPT-PRE としてプロビジョニングされているときのみ。表示専用) DCU の挿入損失を表示します。	—

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G326 OPT-AMP-L 増幅器の光増幅器スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、OPT-AMP-L 増幅器カードの光増幅器スレッシュホールド設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタム アラーム プロファイルを使用してモニタする必要があります。

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光増幅器スレッシュホールド設定を変更する OPT-AMP-L 増幅器をダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Opt Ampli Line > Optics Thresholds** タブをクリックします。



**ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、**ステップ 4**に進みます。

- a. Types で、**Warning** を選択します。
- b. プロビジョニングする警告インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
- c. **Refresh** をクリックします。
- d. **表 11-19** のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- e. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**表 11-19 OPT-AMP-L カードの増幅器回線の警告スレッシュホールド設定**

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (6 : LINE-TX) を表示します。	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、**ステップ 5**に進みます。

- a. Types で、**Alarm** を選択します。
- b. **Refresh** をクリックします。
- c. **表 11-20** のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- d. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**表 11-20 OPT-AMP-L カードの増幅器回線のアラーム スレッシュホールド設定**

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (6 : LINE-TX) を表示します。	—
Power Failure Low (dBm)	ポートの光回線電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。スレッシュホールドは、ANS を実行したときに自動的に計算されます。スレッシュホールドは、手動で変更できます。値は、カード側に指定されている光回線電力の範囲内に設定する必要があります (『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specification」を参照してください)。	数値。ダブルクリックして変更します。

表 11-20 OPT-AMP-L カードの増幅器回線のアラーム スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Power Degrade High (dBm)	<p>(表示のみ) 光電力低下の現在の上限スレッシュホールド値を表示します。このスレッシュホールドは、増幅器がアクティブで Constant Power モードのときだけ適用されます。</p> <p>Power Degrade High は、増幅器の起動時に、TCC2/TCC2P によって自動的に算出されます (ポートの Signal Output Power 値が参照されます)。</p> <p>Power Degrade High スレッシュホールドは、Parameters タブの Output Power Setpoint にリンクされています。この設定点を変更することで、Power Degrade High スレッシュホールドも変更されます。スレッシュホールド値は Output Power Setpoint の値より常に 2 dB 大きく設定されます。</p> <p>増幅器が管理する OCHNC 回線の番号に基づいて、APC はこの値を変更できます。詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の「Network Reference」の章を参照してください。</p>	—
Power Degrade Low (dBm)	<p>(表示のみ) カードに設定された光電力低下の現在の下限スレッシュホールド値を表示します。このスレッシュホールドは、増幅器がアクティブで Constant Power モードのときだけ適用されます。</p> <p>Power Degrade Low は、増幅器の起動時に、TCC2/TCC2P によって自動的に算出されます (ポートの Signal Output Power 値が参照されます)。</p> <p>Power Degrade Low スレッシュホールドは、Parameters タブの Output Power Setpoint に自動的にリンクされています。この設定点を変更することで、Power Degrade Low スレッシュホールドも変更されます。スレッシュホールドは Output Power Setpoint の値より常に 2 dB 小さく設定されます。</p> <p>増幅器が管理する OCHNC 回線の番号に基づいて、APC はこの値を変更できます。</p>	—

表 11-20 OPT-AMP-L カードの増幅器回線のアラーム スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Gain Degrade High (dBm)	<p>(表示のみ) カードに設定されたゲイン低下の現在の上限スレッシュホールド値を表示します。このスレッシュホールドは、増幅器がアクティブで Constant Gain モードのときだけ適用されます。</p> <p>Gain Degrade High は、増幅器の起動時に、TCC2/TCC2P によって自動的に算出されます (ポートの Gain 値が参照されます)。</p> <p>Gain Degrade High スレッシュホールドは、Gain Setpoint にリンクされています。この設定点を変更することで、Gain Degrade High スレッシュホールドも変更されます。スレッシュホールドの値は Gain Setpoint の値より常に 2 dB 大きく設定されます。</p> <p>APC は、増幅器が管理する OCHNC 回線の番号に基づいて、またはファイバの老朽化による挿入損失を補償するように、この値を変更できます。</p>	—
Gain Degrade Low (dBm)	<p>(表示のみ) カードに設定されたゲイン低下の現在の下限スレッシュホールド値を表示します。このスレッシュホールドは、増幅器がアクティブで Constant Gain モードのときだけ適用されます。</p> <p>Gain Degrade Low は、増幅器の起動時に、TCC2/TCC2P によって自動的に算出されます (ポートの Gain 値が参照されます)。</p> <p>Gain Degrade Low スレッシュホールドは、プロビジョニングされた Gain Setpoint に自動的にリンクされます。この設定点を変更することで、Gain Degrade Low のスレッシュホールドも変更されます。スレッシュホールドの値は Gain Setpoint の値より常に 2 dB 小さく設定されます。</p> <p>APC は、増幅器が管理する OCHNC 回線の番号に基づいて、この値を変更できます。</p>	—

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G327 OPT-LINE モードで設定された OPT-AMP-L カードの ALS メンテナンス設定の変更

目的	この作業では、OPT-LINE モードで設定された OPT-AMP-L カードの ALS メンテナンス設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



**(注)** この作業を実行するには、OPT-AMP-L カードが OPT-LINE モードで設定されている必要があります。OPT-AMP-L カードのモードを変更するには、「[DLP-G323 OPT-AMP-L 増幅器の光回線設定の変更](#)」(p.11-27) を参照してください。



**(注)** Automatic Laser Shutdown (ALS; 自動レーザー遮断) 機能をディセーブルにするのは、インストールやメンテナンスのときだけです。メンテナンスまたはインストールが完了したら、ただちにイネーブルにしてください。



### 警告

終端していないファイバ ケーブルの先端やコネクタからは、目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。光学機器を使用してレーザー光を直視しないでください。光学機器(ルーペ、拡大鏡、顕微鏡など)で 100 mm 以内から放射されるレーザーを見ると、目を痛める恐れがあります。

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、ALS メンテナンス設定を変更する OPT-AMP-L をダブルクリックします。
- ステップ 2** **Maintenance > ALS** タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 11-21](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。

表 11-21 OPT-AMP-L のメンテナンス設定

パラメータ	説明	オプション
OSRI	光安全保護リモート インターロック。On に設定すると、OPT-AMP-L TX の出力電力が遮断されます。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• On</li> <li>• Off</li> </ul>
ALS Mode	自動レーザー遮断 (ALS)。OPT-AMP-L カードでは、OPT-AMP-L RX で LOS が検出されたときに ALS が OPT-AMP-L TX レーザーを遮断します。  また、ALS により、DWDM のネットワーク層で光回線の安全メカニズムもイネーブルになります。詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の「Network Reference」の章を参照してください。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Disable — ALS をディセーブルにします。</li> <li>• Auto Restart — (デフォルト)ALS をイネーブルにします。電力は適宜自動的に遮断されます。その後プローブ パルスを使用して、障害が復旧するまで自動的に再起動を試行します。</li> <li>• Manual Restart</li> <li>• Manual Restart for Test</li> </ul>
Recovery Pulse Duration	(表示のみ) 増幅器の再起動時に光電力パルスを送信する時間の長さを表示します。	—
Recovery Pulse Interval	(表示のみ) 光電力パルスの間隔を表示します。	—
Currently Shutdown	(表示のみ) レーザーの現在のステータスを表示します。	—
Request Laser Restart	オンの場合、メンテナンスするためにレーザーを再起動できます。	オンまたはオフ

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## NTP-G92 32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、および 4MD ラインカードの設定と PM スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、マルチプレクサカードおよびデマルチプレクサカードの回線設定と PM パラメータ スレッシュホールドの設定を変更します。ここでは、32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、4MD-xx.x のカードを取り扱います。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">NTP-G30 DWDM カードの取り付け (p.3-52)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



**(注)** マルチプレクサおよびデマルチプレクサの光電力統計情報を表示するには、「[DLP-G141 32MUX-O、32WSS、32WSS-L、32DMX-O、32DMX、および 32DMX-L カードの光パワー統計情報の表示 \(p.8-15\)](#)」の作業を実行します。

**ステップ 1** 32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、または 4MD-xx.x カードの設定を変更するノードで、「[DLP-G46 CTC へのログイン \(p.2-29\)](#)」の作業を行います。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。

**ステップ 2** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ \(p.13-3\)](#)」を実行します。

**ステップ 3** 必要に応じて次の作業を実行します。

- [DLP-G208 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光回線設定の変更 \(p.11-39\)](#)
- [DLP-G209 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光回線スレッシュホールド設定の変更 \(p.11-41\)](#)
- [DLP-G210 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光チャンネル設定の変更 \(p.11-43\)](#)
- [DLP-G211 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光チャンネルスレッシュホールド設定の変更 \(p.11-45\)](#)

**ステップ 4** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ \(p.13-3\)](#)」の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

## DLP-G208 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光回線設定の変更

目的	この作業では、32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、および 4MD-xx.x マルチプレクサカードおよびデマルチプレクサカードの光回線設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティレベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線設定を変更するマルチプレクサカードまたはデマルチプレクサカードをダブルクリックします。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- 32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L カードの場合は、**Provisioning > Optical Line > Parameters** タブをクリックします。
- 4MD カードの場合は、**Provisioning > Optical Band > Parameters** タブをクリックします。

**ステップ 3** [表 11-22](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション (ANSI) の次に SDH オプション (ETSI) が続きます。

表 11-22 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光回線設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  32DMX、32DMX-O、32DMX-L <ul style="list-style-type: none"> <li>• 33 (COM-RX)</li> </ul> 32MUX-O <ul style="list-style-type: none"> <li>• 33 (COM-TX)</li> </ul> 4MD <ul style="list-style-type: none"> <li>• 9 (COM-RX) および 10 (COM-TX)</li> </ul>	—
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。  <a href="#">「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」 (p.7-3)</a> を参照してください。

表 11-22 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光回線設定（続き）

パラメータ	説明	オプション
Admin State	ポートのサービス状態を設定します（ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります）。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>
Service State	（表示のみ）自動的に生成された状態を判別します（この状態が、ポートの全般的な状態となります）。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled, automaticInService</li> <li>OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>East to West</li> <li>West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Power	（表示のみ）現在の電力レベルをポート別に表示します。	—
AINS Soak	（表示のみ）オート イン サービスのソーク期間。常に 00.00 です。	—
VOA Mode	（32DMX と 32DMX-L のみ。表示専用）存在する場合、VOA の機能モードを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Constant Attenuation</li> <li>Constant Power</li> </ul>
VOA Power Ref	（32DMX と 32DMX-L のみ：表示専用）VOA が存在し、VOA Mode が Constant Power に設定されている場合、光回線が到達すべき電力設定点を表示します。このパラメータは、ANS でのみ変更できます。	—
VOA Power Calib	（32DMX と 32DMX-L のみ）VOA Mode が Constant Power に設定されている場合、VOA の光回線の電力値を変更します。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
VOA ATTenuation Ref	（32DMX と 32DMX-L のみ。表示専用）VOA Mode が Constant Attenuation に設定されている場合、VOA の減衰値を表示します。このパラメータは、ANS でのみ変更できます。	—
VOA Attenuation Calib	（32DMX と 32DMX-L のみ）VOA Mode が Constant Attenuation に設定されている場合、VOA の減衰値を変更します。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順（NTP）に戻ります。



## DLP-G209 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光回線スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、および 4MD-xx.x マルチプレクサカードおよびデマルチプレクサカードの光回線スレッシュホールド設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティレベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノードビュー (シングルシェルフモード) またはシェルフビュー (マルチシェルフモード) で、光回線スレッシュホールド設定を変更するマルチプレクサカードまたはデマルチプレクサカードをダブルクリックします。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- 32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L カードの場合は、**Provisioning > Optical Line > Optics Thresholds** タブをクリックします。
- 4MD カードの場合は、**Provisioning > Optical Band > Optics Thresholds** タブをクリックします。

**ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。

- a. **Types** で、**Warning** を選択します。
- b. プロビジョニングする警告インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
- c. **Refresh** をクリックします。
- d. [表 11-23](#) のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- e. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-23 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光回線の警告スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号と説明を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 33 (COM-RX) (32DMX、32DMX-O、32DMX-L の場合)</li> <li>• 33 (COM-TX) (32MUX-O の場合)</li> <li>• 9 (COM-RX) および 10 (COM-TX) (4MD の場合)</li> </ul>
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**注意**

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタム アラーム プロファイルを使用してモニタする必要があります。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

- a. Types で、**Alarm** を選択します。
- b. **Refresh** をクリックします。
- c. [表 11-24](#) のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- d. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**表 11-24** マルチプレクサとデマルチプレクサの光回線のアラーム スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  32DMX、32DMX-O、32DMX-L  • 33 (COM-RX)  32MUX-O  • 33 (COM-TX)  4MD  • 9 (COM-RX) および 10 (COM-TX)	—
Power Failure Low (dBm)	ポートの光回線電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。スレッシュホールドは、ANS を実行したときに自動的に計算されます。スレッシュホールドは、手動で変更できます。値は、カード側に指定されている光回線電力の範囲内に設定する必要があります (『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specification」を参照してください)。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
Power Degrade High (dBm)	32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、および 4MD-xx.x カードには適用されません。	—
Power Degrade Low (dBm)	32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、および 4MD-xx.x カードには適用されません。	—

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G210 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光チャネル設定の変更

目的	この作業では、32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、および 4MD-xx.x マルチプレクサカードおよびデマルチプレクサカードの光チャネル設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティレベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノードビュー（シングルシェルフモード）またはシェルフビュー（マルチシェルフモード）で、光チャネル設定を変更するマルチプレクサカードまたはデマルチプレクサカードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Optical Chn > Parameters** タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 11-25](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション（ANSI）の次に SDH オプション（ETSI）が続きます。

表 11-25 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光チャネル設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L  1 ~ 32 (CHAN-RX または CHAN-TX)  4MD-xx.x  1 ~ 8 (CHAN-RX または CHAN-TX)	—
Port Name	指定したポートに名前を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。  <a href="#">「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」 (p.7-3)</a> を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>

表 11-25 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光チャンネル設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled, automaticInService</li> <li>OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>East to West</li> <li>West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Power	(表示のみ) 現在の電力レベルをポート別に表示します。	—
Actual Wavelength	(表示のみ) 製造データにより指定された波長を表示します。このフィールドを手動で設定することはできません。	—
Expected Wavelength	事前にプロビジョニングされた波長を表示します。	数値。このフィールドは変更できません。
AINS Soak	(表示のみ) オート イン サービスのソーク期間。常に 00.00 です。	—
VOA Mode	(表示専用。32MUX-O、32DMX-0、4MD-xx.x カードのみ) 現在の VOA の機能モードを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Constant Power</li> <li>Constant Attenuation</li> </ul>
VOA Power Ref.	(表示専用。32MUX-O、32DMX-0、4MD-xx.x カードのみ) VOA Mode が Constant Power の場合、VOA が存在するパスが到達すべき Power Setpoint を表示します。  デマルチプレクサは、クライアントに送られる適切な光電力の基準値を示します。マルチプレクサは、チャンネルごとの適切な光電力の基準値を示します。このパラメータは、ANS でのみ変更できます。	—
VOA Power Calib.	(32MUX-O、32DMX-0、4MD-xx.x カードのみ) VOA への光出力電力を、必要に応じてユーザ側で変更できます。VOA 電力補正值は、VOA 電力基準値をオフセットします。  デマルチプレクサの場合、必要に応じて、クライアントへの光出力電力を変更できます。マルチプレクサの場合、チャンネルごとの出力電力を変更できます。  この機能は通常、Network Type が Provisioning > WDM-ANS タブで [Access] として設定されている場合に使用します。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

表 11-25 マルチプレクサ カードとデマルチプレクサ カードの光チャネル設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
VOA Attenuation Ref.	(表示専用。32MUX-O、32DMX-0、4MD-xx.x カードのみ) VOA が減衰モードに設定されている場合、VOA の減衰値を表示します。このパラメータは、ANS と APC でのみ変更できます。	—
VOA Attenuation Calib	(32MUX-O、32DMX-0、4MD-xx.x カードのみ) VOA が定減衰モードに設定されている場合に、必要に応じて VOA の減衰値を変更できます。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G211 マルチプレクサ カードとデマルチプレクサ カードの光チャネル スレッシュホールド設定の変更

目的	この作業では、32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L、および 4MD-xx.x マルチプレクサ カードおよびデマルチプレクサ カードの光チャネル スレッシュホールド設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタムアラームプロファイルを使用してモニタする必要があります。

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光スレッシュホールド設定を変更するマルチプレクサ カードまたはデマルチプレクサ カードをダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Optical Chn > Optics Thresholds** タブをクリックします。

**ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。

- a. **Types** で、**Warning** を選択します。
- b. プロビジョニングする警告インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
- c. **Refresh** をクリックします。

- d. 表 11-26 のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- e. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-26 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光チャネルの警告スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L  • 1 ~ 32 (CHAN-RX または CHAN-TX)  4MD-xx.x  • 1 ~ 8 (CHAN-RX または CHAN-TX)	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 5](#) に進みます。

- a. **Types** で、**Alarm** を選択します。
- b. **Refresh** をクリックします。
- c. 表 11-27 のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- d. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-27 マルチプレクサカードとデマルチプレクサカードの光チャネルのアラーム スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (TX または RX) を表示します。  32MUX-O、32DMX-O、32DMX、32DMX-L  • 1 ~ 32 (CHAN-RX または CHAN-TX)  4MD-xx.x  • 1 ~ 8 (CHAN-RX または CHAN-TX)	—

表 11-27 マルチプレクサ カードとデマルチプレクサ カードの光チャネルのアラーム スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Power Failure Low (dBm)	<p>電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時に、電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、Constant Power モードで常にアクティブな VOA (OSC-VOA) に関連するポートに適用されます。</p> <p>スレッシュホールドは、プロビジョニングされた Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) に自動的にリンクされます。この設定点を変更すると、スレッシュホールドも (常に 5 dB 低く) 変更されます。</p> <p>32DMX は例外です。32DMX Power Failure Low スレッシュホールドは、VOA に関連しないポートに適用されます。スレッシュホールドは、ANS を実行したときに自動的に計算されます。スレッシュホールドは、手動で変更できます。値は、カード側に指定されている光回線電力の範囲内に設定する必要があります (『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specification」を参照してください)。</p>	<p>数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、<b>Enter</b> を押します。</p>
Power Degrade High (dBm)	<p>電力低下の上限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時に電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、Constant Power モードで常にアクティブな VOA (OSC-VOA) に関連するポートに適用されます。</p> <p>スレッシュホールドは、プロビジョニングされた Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) に自動的にリンクされます。この設定点を変更すると、スレッシュホールドも (常に 3 dB 高く) 変更されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、32DMX カードと 32DMX-L カードには適用されません。</p>	—
Power Degrade Low (dBm)	<p>電力低下の下限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時に電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、Constant Power モードで常にアクティブな VOA (OSC-VOA) に関連するポートに適用されます。</p> <p>スレッシュホールドは、プロビジョニングされた Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) に自動的にリンクされます。この設定点を変更すると、スレッシュホールドも (常に 2 dB 低く) 変更されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、32DMX カードと 32DMX-L カードには適用されません。</p>	<p>数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、<b>Enter</b> を押します。</p>

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

## NTP-G93 32WSS と 32WSS-L の回線設定と PM スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、32WSS カードおよび 32WSS-L カードのスレッシュホールドと設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">NTP-G30 DWDM カードの取り付け (p.3-52)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** 32WSS および 32WSS-L カードの設定を変更するノードで、「[DLP-G46 CTC へのログイン](#)」(p.2-29) の作業を行います。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。

**ステップ 2** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ](#)」(p.13-3) の作業を行います。

**ステップ 3** 必要に応じて次の作業を実行します。

- [DLP-G212 32WSS と 32WSS-L の光チャンネルパラメータの変更](#) (p.11-49)
- [DLP-G213 32WSS と 32WSS-L の光チャンネルスレッシュホールドの変更](#) (p.11-51)



(注) アラーム プロファイルの作成やアラームの抑制など、Alarm Profiles タブの使用については、[第 9 章「アラームの管理」](#)を参照してください。

- [DLP-G214 32WSS と 32WSS-L の光回線パラメータの変更](#) (p.11-54)
- [DLP-G215 32WSS と 32WSS-L の光回線スレッシュホールドの変更](#) (p.11-55)

**ステップ 4** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ](#)」(p.13-3) の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。



## DLP-G212 32WSS と 32WSS-L の光チャネルパラメータの変更

目的	この作業では、32WSS カードと 32WSS-L カードの光チャネルパラメータ設定を変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光チャネルパラメータ設定を変更する 32WSS および 32WSS-L カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Optical Chn: Optical Connector $n$  > Parameters** タブをクリックします。 $n$  は、8 つの光チャネルからなる 4 つの利用可能なグループのいずれかです。
- ステップ 3** [表 11-28](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション (ANSI) の次に SDH オプション (ETSI) が続きます。

表 11-28 32WSS と 32WSS-L の光チャネルパラメータ設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号を表示します。各光チャネル (波長) には 2 つの論理ポートがあります。ただし、アクティブになるのは一度に 1 つのみで、モードはカードビューの Maintenance タブでポートにプロビジョニングした操作モード (CHAN-RX または PASS-THROUGH) に従います。  ポート 1 ~ 32 (CHAN-RX) には、アドチャネルとして設定された光チャネルが割り当てられます。ポート 33 ~ 64 (PASS-THROUGH) には、パススルーチャネルとして設定された光チャネルが割り当てられます。	—
Port Name	各ポートに論理名を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。  <a href="#">「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-3)</a> を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>

表 11-28 32WSS と 32WSS-L の光チャネルパラメータ設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled, automaticInService</li> <li>OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>East to West</li> <li>West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Power	(表示のみ) ポートに関連した VOA の後ろに位置するフォトダイオードによって読み込まれる Power の値は、COM_TX ポート用に較正されます。詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の「Card Reference」の章または付録「Hardware Specifications」を参照してください。	数値 (dB)
Actual Wavelength	(表示のみ) チャネルで使用する実際の波長を表示します。	—
Expected Wavelength	(表示のみ) チャネルに割り当てられている予測波長を表示します。	—
AINS Soak	(表示のみ) オート イン サービスのソーク期間。常に 00.00 です。	—
VOA Mode	(表示のみ) アクティブな VOA の稼働モードを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Constant Power</li> <li>Constant Attenuation</li> </ul>
VOA Power Reference	(表示のみ) VOA Mode が Constant Power に設定されている場合、VOA が存在するパスで到達すべき光回線の電力設定点の値を表示します。適切な値が光チャネルごとに表示されます。このパラメータは、ANS でのみ変更できます。	数値 (dB)
VOA Power Calibration	VOA Mode が Constant Power の場合、VOA の電力値を修正できます。	パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>数値 (dB)</li> <li>-37 dB ~ -2 dB</li> </ul>
VOA Attenuation Reference	(表示のみ) VOA Mode が Constant Attenuation に設定されている場合、VOA の減衰値を表示します。このパラメータは、ANS でのみ変更できます。	数値 (dB)
VOA Attenuation Calibration	VOA Mode が Constant Attenuation の場合、VOA の減衰値を修正できます。	パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>数値 (dB)</li> <li>-30 dB ~ +30 dB</li> </ul>

表 11-28 32WSS と 32WSS-L の光チャネルパラメータ設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Power ADD	(表示のみ) ADD RX ポートの入力光電力の測定値を表示します (CHAN-RX ポート カラムにレポート)。32WSS または 32WSS-L に接続された TXP または MXP カードの TX レーザーによって電力が送信されます。	数値 (dB)
Path Value	(表示のみ) CHAN-RX ポート カラムのパラメータについてパス値を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Standby</li> </ul>

**ステップ 4** **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G213 32WSS と 32WSS-L の光チャネル スレッシュホールドの変更

目的	この作業では、32WSS カードと 32WSS-L カードの光チャネル スレッシュホールド設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタム アラーム プロファイルを使用してモニタする必要があります。

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光チャネル スレッシュホールド設定を変更する 32WSS または 32WSS-L カードをダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Optical Chn: Optical Connector $n$  > Parameters** タブをクリックします。 $n$  は、8 つの光チャネルからなる 4 つの利用可能なグループのいずれかです。

**ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。

- a. **Types** で、**Warning** を選択します。
- b. プロビジョニングする警告インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
- c. **Refresh** をクリックします。
- d. [表 11-29](#) のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。

- e. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-29 32WSS と 32WSS-L の光チャネルの警告スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。各光チャネル (波長) には 2 つの論理ポートがあります。ただし、アクティブになるのは一度に 1 つのみで、モードはカードビューの Maintenance タブでポートにプロビジョニングした動作モード (CHAN-RX または PASS-THROUGH) に従います。	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 5](#) に進みます。

- a. **Types** で、**Alarm** を選択します。
- b. **Refresh** をクリックします。
- c. [表 11-30](#) のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- d. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-30 32WSS と 32WSS-L の光チャネルのアラーム スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。光チャネル (波長) ごとに、2 つの論理ポートが関連付けられます。一度にアクティブにできるポートは 1 つだけであり、ポートの動作モードに応じて決まります。動作モードは、カードビューの Maintenance タブでプロビジョニングされ、CHAN RX または PASS-THROUGH のいずれかです。  ポート 1 ~ 32 (CHAN-RX) には、Add Drop チャネルとして設定された光チャネルが関連付けられます。ポート 33 ~ 64 (PASS-THROUGH) には、パススルーチャネルとして設定された光チャネルが関連付けられます。	—

表 11-30 32WSS と 32WSS-L の光チャネルのアラーム スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Power Failure Low (dBm)	<p>電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時にこの電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、Constant Power モードで常にアクティブな VOA (OSC-VOA) に関連するポートに適用されます。</p> <p>スレッシュホールドは、プロビジョニングされた Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) に自動的にリンクされます。この設定点を変更すると、スレッシュホールドも (常に 5 dB 低く) 変更されます。</p> <p>スレッシュホールドは、ANS を実行したときに自動的に計算されます (『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specifications」を参照)。</p>	数値。CTC では変更できません。
Power Degrade High (dBm)	<p>(表示のみ) 電力低下の上限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時にこの電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、Constant Power モードで常にアクティブな VOA (OSC-VOA) に関連するポートに適用されます。</p> <p>スレッシュホールドは、プロビジョニングされた Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) に自動的にリンクされます。この設定点を変更すると、スレッシュホールドも (常に 3 dB 高く) 変更されます。</p>	—
Power Degrade Low (dBm)	<p>(表示のみ) 電力低下の下限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時にこの電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、Constant Power モードで常にアクティブな VOA (OSC-VOA) に関連するポートに適用されます。</p> <p>スレッシュホールドは、プロビジョニングされた Power Setpoint (VOA Power Ref + VOA Power Calib) に自動的にリンクされます。この設定点を変更すると、スレッシュホールドも (常に 2 dB 低く) 変更されます。</p>	数値
Power ADD Failure Low (dBm)	<p>電力追加障害の下限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時にこの電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。</p> <p>このスレッシュホールドは、ADD_RX ポートにおける光電力の実際の測定値に適用されます (CHAN RX としてレポート)。この電力は、32WSS または 32WSS-L カードに接続された TXP/MXP カードの Trunk-TX レーザーによって送信されます。</p>	数値。CTC では変更できません。

ステップ 5 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G214 32WSS と 32WSS-L の光回線パラメータの変更

目的	この作業では、32WSS カードと 32WSS-L カードの光回線パラメータ設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線パラメータ設定を変更する 32WSS または 32WSS-L カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Parameters** タブをクリックします。
- ステップ 3** [表 11-31](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション (ANSI) の次に SDH オプション (ETSI) が続きます。

表 11-31 32WSS と 32WSS-L の光回線パラメータ設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>65 (EXP-TX)</li> <li>66 (EXP-RX)</li> <li>67 (COM-TX)</li> <li>68 (COM-RX)</li> <li>69 (DROP-TX)</li> </ul>	—
Port Name	表示される各ポートに論理名を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトは空白です。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。 <a href="#">「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-3)</a> を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>

表 11-31 32WSS と 32WSS-L の光回線パラメータ設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled, automaticInService</li> <li>OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>East to West</li> <li>West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Power	(表示のみ) ポートに関連付けられたフォトダイオードで読み取った電力値。	数値 (dB)
AINS Soak	(表示のみ) オートインサービスのソーク期間。常に 00.00 です。	—

**ステップ 4** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G215 32WSS と 32WSS-L の光回線スレッシュホールドの変更

目的	この作業では、32WSS および 32WSS-L カードの光回線スレッシュホールド設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタム アラーム プロファイルを使用してモニタする必要があります。

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線の警告スレッシュホールド設定を変更する 32WSS または 32WSS-L カードをダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Optics Thresholds** タブをクリックし、使用できる 8 つの光チャネルからなる 4 グループのうち 1 つを表示します。

**ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。

- a. Types で、**Warning** を選択します。
- b. プロビジョニングする警告インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
- c. **Refresh** をクリックします。
- d. [表 11-32](#) のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- e. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**表 11-32 32WSS と 32WSS-L の光回線の警告スレッシュホールド設定**

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 65 (EXP-TX)</li> <li>• 66 (EXP-RX)</li> <li>• 67 (COM-TX)</li> <li>• 68 (COM-RX)</li> <li>• 69 (DROP-TX)</li> </ul>	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

- a. Types で、**Alarm** を選択します。
- b. **Refresh** をクリックします。
- c. [表 11-33](#) のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- d. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**表 11-33 32WSS と 32WSS-L の光回線のアラーム スレッシュホールド設定**

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 65 (EXP-TX)</li> <li>• 66 (EXP-RX)</li> <li>• 67 (COM-TX)</li> <li>• 68 (COM-RX)</li> <li>• 69 (DROP-TX)</li> </ul>	—



表 11-33 32WSS と 32WSS-L の光回線のアラーム スレッシュホールド設定 (続き)

パラメータ	説明	オプション
Power Failure Low (dBm)	電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時にこの電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。  また、スレッシュホールドは手動で変更できます。値は、カード側に指定されている光回線電力の範囲内に設定する必要があります (『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specifications」を参照してください)。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。
Power Degrade High (dBm)	光回線レベルの 32WSS カードと 32WSS-L カードには適用されません。	—
Power Degrade Low (dBm)	光回線レベルの 32WSS カードと 32WSS-L カードには適用されません。	—

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## NTP-G149 MMU の回線設定と PM スレッシュホールドの変更

目的	この手順では、MMU カードのスレッシュホールドと設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">NTP-G30 DWDM カードの取り付け (p.3-52)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** MMU カードの設定を変更するノードで、「[DLP-G46 CTC へのログイン \(p.2-29\)](#)」の作業を行います。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。

**ステップ 2** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ \(p.13-3\)](#)」の作業を行います。

**ステップ 3** 必要に応じて次の作業を実行します。



**(注)** アラーム プロファイルの作成やアラームの抑制など、Alarm Profiles タブの使用については、[第 9 章「アラームの管理」](#)を参照してください。

- [DLP-G342 MMU の光回線パラメータの変更 \(p.11-58\)](#)
- [DLP-G343 MMU の光回線スレッシュホールドの変更 \(p.11-60\)](#)

**ステップ 4** 「[NTP-G103 データベースのバックアップ \(p.13-3\)](#)」の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

## DLP-G342 MMU の光回線パラメータの変更

目的	この作業では、MMU カードの光回線のパラメータ設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）で、光回線のパラメータ設定を変更する MMU カードをダブルクリックします。

**ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Parameters** タブをクリックします。

**ステップ 3** [表 11-34](#) に示す設定を、必要に応じて変更します。プロビジョニング可能なパラメータは、表のオプションのカラムに一覧されています。オプションのカラムでは、SONET オプション（ANSI）の次に SDH オプション（ETSI）が続きます。

表 11-34 MMU の光回線のパラメータ設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポート タイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (EXP-RX)</li> <li>• 2 (EXP-TX)</li> <li>• 3 (COM-RX)</li> <li>• 4 (COM-TX)</li> <li>• 5 (EXP A-RX)</li> <li>• 6 (EXP A-TX)</li> </ul>	—
Port Name	表示される各ポートに論理名を割り当てます。	ユーザ定義。名前として、英数字や特殊文字を含む 32 文字以下の文字列を指定できます。デフォルトはブランクです。ダブルクリックして名前を入力し、 <b>Enter</b> を押します。  <a href="#">「DLP-G104 ポートへの名前の割り当て」(p.7-3)</a> を参照してください。
Admin State	ポートのサービス状態を設定します (ネットワークの状態によっては変更できない場合もあります)。管理状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• IS,AINS/Unlocked,automaticInService</li> <li>• OOS,DSBLD/Locked,disabled</li> <li>• OOS,MT/Locked,maintenance</li> </ul>
Service State	(表示のみ) 自律的に生成された状態を判別します (この状態が、ポートの全般的な状態となります)。Service State の表示形式は、Primary State-Primary State Qualifier, Secondary State です。サービス状態の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IS-NR/Unlocked-enabled</li> <li>• OOS-AU,AINS/Unlocked-disabled, automaticInService</li> <li>• OOS-MA,DSBLD/Locked-enabled,disabled</li> <li>• OOS-MA,MT/Locked-enabled,maintenance</li> </ul>
Line Direction	ポートを通過する光信号に関連した回線方向を表示します。このパラメータは、ANS 時に自動的に設定されます。変更するには、Cisco MetroPlanner でネットワーク計画を変更し、NE Update ファイルをインポートし、ANS を実行する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• East to West</li> <li>• West to East</li> </ul> オプションは変更できません。
Power	(表示のみ) ポートに関連付けられたフォトダイオードで読み取った電力値。	数値 (dB)
AINS Soak	(表示のみ) オートインサービスのソーク期間。常に 00.00 です。	—

**ステップ 4** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G343 MMU の光回線スレッシュホールドの変更

目的	この作業では、MMU カードの光回線のスレッシュホールド設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



## 注意

警告スレッシュホールドは CTC でモニタされません。これらはユーザがプロビジョニングし、カスタムアラームプロファイルを使用してモニタする必要があります。

- ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、光回線の警告スレッシュホールド設定を変更する MMU カードをダブルクリックします。
- ステップ 2** **Provisioning > Optical Line > Optics Thresholds** タブをクリックします。
- ステップ 3** 警告スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
- Types で、**Warning** を選択します。
  - プロビジョニングする警告インターバルを選択します (**15 minutes** または **1 Day**)。
  - Refresh** をクリックします。
  - [表 11-35](#) のオプションのカラムに示される警告スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
  - Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

表 11-35 MMU の光回線の警告スレッシュホールド設定

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポートタイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (EXP-RX)</li> <li>• 2 (EXP-TX)</li> <li>• 3 (COM-RX)</li> <li>• 4 (COM-TX)</li> <li>• 5 (EXP A-RX)</li> <li>• 6 (EXP A-TX)</li> </ul>	—
opwrMin (dBm)	低電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは -50 dBm です。
opwrMax (dBm)	高電力警告レベルを設定します。	数値。15 分間隔または 1 日間隔で設定できます。デフォルトは 30 dBm です。

**ステップ 4** アラーム スレッシュホールドを変更する場合は、次の手順を実行します。その必要がない場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

- a. Types で、**Alarm** を選択します。
- b. **Refresh** をクリックします。
- c. [表 11-36](#) のオプションのカラムに示されるアラーム スレッシュホールドを、必要に応じて変更します。
- d. **Apply** をクリックします。変更がトラフィックに影響を与える場合は、警告メッセージが表示されます。**Yes** をクリックして変更を実行します。

**表 11-36 MMU の光回線のアラーム スレッシュホールド設定**

パラメータ	説明	オプション
Port	(表示のみ) ポート番号、ポート タイプ、および方向 (RX または TX) を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (EXP-RX)</li> <li>• 2 (EXP-TX)</li> <li>• 3 (COM-RX)</li> <li>• 4 (COM-TX)</li> <li>• 5 (EXP A-RX)</li> <li>• 6 (EXP A-TX)</li> </ul>	—
Power Failure Low (dBm)	電力障害の下限スレッシュホールドを表示します。ANS 実行時にこの電力値が対応するポートに適用され自動的に算出されます。  スレッシュホールドは手動で変更できます。値は、カード側に指定されている光回線電力の範囲内に設定する必要があります (『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の付録「Hardware Specifications」を参照してください)。	数値。パラメータをダブルクリックし、値を入力し、 <b>Enter</b> を押します。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## NTP-G101 Alarm Interface Controller-International (AIC-I) の設定の変更

目的	この手順では、AIC-I カードをプロビジョニングして、バックプレーンに配線された外部デバイスとの間の入出力を送受信したり（外部アラームおよび外部制御、または環境アラームと呼ばれます）、オーダーワイヤの設定を変更したりします。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	NTP-G72 AIC-I カードの外部アラームおよび外部制御のプロビジョニング (p.9-39)  DLP-G109 オーダーワイヤのプロビジョニング (p.7-26)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** AIC-I カードの設定を変更するノードで、「DLP-G46 CTC へのログイン」(p.2-29) の作業を行います。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。

**ステップ 2** 「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3) を実行します。

**ステップ 3** 必要に応じて次の作業を実行します。

- DLP-G245 AIC-I カードを使用した外部アラームの変更 (p.11-62)
- DLP-G246 AIC-I カードを使用した外部制御の変更 (p.11-63)
- DLP-G247 AIC-I カードのオーダーワイヤ設定の変更 (p.11-64)

**ステップ 4** 「NTP-G103 データベースのバックアップ」(p.13-3) の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

### DLP-G245 AIC-I カードを使用した外部アラームの変更

目的	この作業では、AIC-I カードの外部アラームの設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



**(注)** この手順は、Alarm Expansion Panel (AEP; アラーム拡張パネル) を使用している場合でも同様です。この場合は、画面に表示される接点の数が異なります。

- ステップ 1** 外部デバイスのリレーが ENVIR ALARMS IN ピンに配線されていることを確認します。詳細については、「[DLP-G20 MIC-A/P へのアラーム線の取り付け \(ETSI のみ\)](#)」(p.1-53) (ETSI) または「[DLP-G23 バックプレーンへのアラーム線の取り付け \(ANSI のみ\)](#)」(p.1-58) (ANSI) を参照してください。
- ステップ 2** AIC-I カードをダブルクリックし、カード ビューで表示します。
- ステップ 3** **Provisioning > External Alarms** タブをクリックします。
- ステップ 4** ONS 15454 のバックプレーンに配線されている各外部デバイスについて、必要に応じて次のフィールドを変更します。これらのフィールドの定義については、「[NTP-G72 AIC-I カードの外部アラームおよび外部制御のプロビジョニング](#)」(p.9-39) を参照してください。
- Enabled
  - Alarm Type
  - Severity
  - Virtual Wire
  - Raised When
  - Description
- ステップ 5** **Apply** をクリックします。
- ステップ 6** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G246 AIC-I カードを使用した外部制御の変更

目的	この作業では、AIC-I カードの外部制御の設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン</a> (p.2-29)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



**(注)** この作業は、AEP を使用している場合でも同様です。この場合は、画面に表示される接点の数が異なります。

- ステップ 1** ENVIR ALARMS OUT バックプレーン ピンへの外部制御のリレーを確認します。詳細については、「[DLP-G20 MIC-A/P へのアラーム線の取り付け \(ETSI のみ\)](#)」(p.1-53) (ETSI) または「[DLP-G23 バックプレーンへのアラーム線の取り付け \(ANSI のみ\)](#)」(p.1-58) (ANSI) を参照してください。
- ステップ 2** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、AIC-I カードをダブルクリックし、カード ビューに表示します。
- ステップ 3** **Provisioning > External Controls** タブをクリックします。

**ステップ 4** ONS 15454 のバックプレーンに配線されている各外部制御について、必要に応じて次のフィールドを変更します。これらのフィールドの定義については、「[NTP-G72 AIC-I カードの外部アラームおよび外部制御のプロビジョニング](#)」(p.9-39) を参照してください。

- Enabled
- Trigger Type
- Control Type
- Description

**ステップ 5** **Apply** をクリックします。

**ステップ 6** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G247 AIC-I カードのオーダーワイヤ設定の変更

目的	この作業では、AIC-I カードのオーダーワイヤ設定を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン</a> (p.2-29)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

リング内に存在する ONS 15454 に対するオーダーワイヤのプロビジョニングを行う場合、完全なオーダーワイヤループのプロビジョニングを行わないでください。たとえば、4つのノードがあるリングでは、通常、4つのノードすべてにプロビジョニングされたイーストポートとウェストポートがあります。ただし、オーダーワイヤループを防止するには、1つのリングノードを除いたすべてのノードで、2つのオーダーワイヤポート（イーストとウェスト）をプロビジョニングしてください。



### ヒント

プロビジョニングを開始する前に、オーダーワイヤ通信が必要な ONS 15454 スロットおよびポートのリストを作成してください。

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、AIC-I カードをダブルクリックし、カードビューに表示します。

**ステップ 2** 変更するオーダーワイヤパスに応じて、**Provisioning > Local Orderwire** または **Provisioning > Express Orderwire** タブをクリックします。プロビジョニングのステップは、両方のタイプのオーダーワイヤで同じです。

**ステップ 3** 必要に応じて、使用するヘッドセットのタイプ (4 線式または 2 線式) に合わせて、スライダを右または左に移動し、送信 (Tx) と受信 (Rx) の dBm 値を調整します。通常、dBm 値を調整する必要はありません。



- ステップ 4** オーダーワイヤの可聴アラート（ブザー）をイネーブルにする場合は、**Buzzer On** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** **Apply** をクリックします。
- ステップ 6** 元の手順（NTP）に戻ります。

## NTP-G102 カードのサービス状態の変更

目的	この手順では、カードのサービス状態を変更します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">NTP-G30 DWDM カードの取り付け (p.3-52)</a> または <a href="#">NTP-G32 トランスポンダカードおよびマックスポンダカードの取り付け (p.3-58)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** カードのサービス状態を変更するノードで、「[DLP-G46 CTC へのログイン](#)」(p.2-29) の作業を行います。
- ステップ 2** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、**Inventory** タブをクリックします。
- ステップ 3** 変更するカードの **Admin State** カラムのセルをクリックし、ドロップダウン リストから管理状態を選択します。
- **IS** (ANSI) または **Unlocked** (ETSI)
  - **OOS,MT** (ANSI) または **Locked-enabled** (ETSI)
- ステップ 4** **Apply** をクリックします。
- ステップ 5** カードの現在の状態を変更できないというエラー メッセージが表示された場合は、**OK** をクリックします。

カードの状態遷移の詳細については、『*Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual*』の付録「Administrative and Service States」を参照してください。

終了：この手順は、これで完了です。

